

経済産業省が定める「DX認定」の更新

2026年3月3日
北陸電力株式会社

当社は、3月1日付でDX（デジタルトランスフォーメーション）認定制度に基づき経済産業省が定める「DX認定」を更新しましたので、お知らせいたします。



当社は、「北陸電力DX戦略」を策定・公表（2023年10月）し、全社を挙げてDXを推進しており、2024年3月1日に、経済産業省が定める「DX認定事業者」に認定されました。（2024年3月4日お知らせ済み）

DX認定は、経済産業省のデジタルガバナンス・コード[※]に基づき、企業を評価する制度であり、認定期間は2年間と設定されており、今回が2回目の認定となります。

今後もより一層の取組みの定着・加速を図ることで、経営環境の変化に柔軟に対応し、北陸地域と共に持続可能な発展とスマート社会の実現を目指してまいります。

<参考>北陸電力グループの「DX認定事業者」

北陸電力株、北陸電力送配電株、金沢エナジー株、北電技術コンサルタント株、北陸通信ネットワーク株、北電情報システムサービス株 【計6社】

以 上

別 紙：北陸電力グループ DXの取組み

※「デジタルガバナンス・コード」

経済産業省が企業のDXに関する自主的取組みを促すため、デジタル技術による社会変革を踏まえた経営ビジョンの策定・公表といった経営者に求められる対応を取りまとめた方針

北陸電力グループ DXの取組み

2026年3月3日
北陸電力株式会社

- 当社は、2023年10月に“北陸電力DX戦略”を策定し、全社を挙げてDXを推進しています。
- 業務改廃や業務プロセスの変革を行いながら、『デジタルツールの活用促進』や『業務への積極的なAIの活用』などにより、DXの取組みを加速化するとともに、一部の施策についてはグループ会社へ拡大しています。
- 今後も引き続き、北陸電力グループ一体となってDXの推進・AI活用に取り組んでまいります。

■ 当社の主なDXの取組み



ノーコードツール導入

 **kintone**

24年1月導入

25年4月グループ会社へ拡大

グループ大で活用



社内FAQツール


りくサポ!

25年1月導入

AI活用



当社専用生成AI
議事録自動生成AI

Lingo 

25年12月導入

AI活用

- 2024年1月から全社でkintone※を導入。市民開発を推進し、各自が業務にあったアプリを作成することで情報の一元管理、電子回覧、データ集計作業などの効率化・迅速化を実現しています。
※プログラミングの知識がなくても直感的な操作で業務アプリの作成が可能なクラウドサービス
- さらに、2025年4月からはグループ各社へも導入を拡大し、アプリの水平展開による「迅速なシステム化」やグループ内での情報共有を通じた「業務効率化/品質向上」を図っています。

■北陸電力のkintone活用状況

従来

システム部門に依頼し、グループ会社で開発

各職場

システム部門/
ITグループ会社

- ・DXニーズ拡大
- ・IT人材の不足

現在

各部門へ操作教育を合同実施し、各職場でアプリ作成

市民開発!

システムハンダー

各職場

- ・各自で業務にあったアプリを作成

成果	kintone利用率	アプリ作成者	運用中のアプリ数
	95 %	220 人	670 アプリ

■グループ会社への導入拡大 (グループ会社16社で活用中)

水平展開!

アプリ水平展開

<取組み例>
各社共通業務である諸届申請(17種)の業務フローを統一化し各社で活用可能な「共通アプリ」を各社へ展開

情報共有!

グループ内情報共有

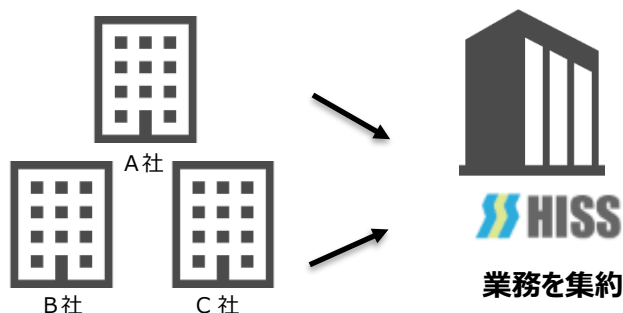
<取組み例>
法令改正対応の情報を一元管理し、情報共有することで、情報収集の効率化や対応の抜け漏れを防止

成果	アプリの水平展開による迅速なシステム化 (水平展開アプリ数 約30 アプリ)
	情報共有アプリによる業務効率化/品質向上

- グループ大でのkintone導入にあたり、問合せ対応や教育業務等を当社グループの北電情報システムサービス（HISS）にて集約。
- グループ各社の業務の重複や非効率を解消し、生産性向上を図るとともに業務品質の均一化・向上も実現しています。

■ kintone管理運用業務の集約・一元化

グループ大の集約業務（北陸電力本体も含む）



【グループ大での教育・利用促進施策】



- kintoneの有効活用事例を共有する発表会を開催
- DXのリテラシー向上に向けた講演も合わせて実施

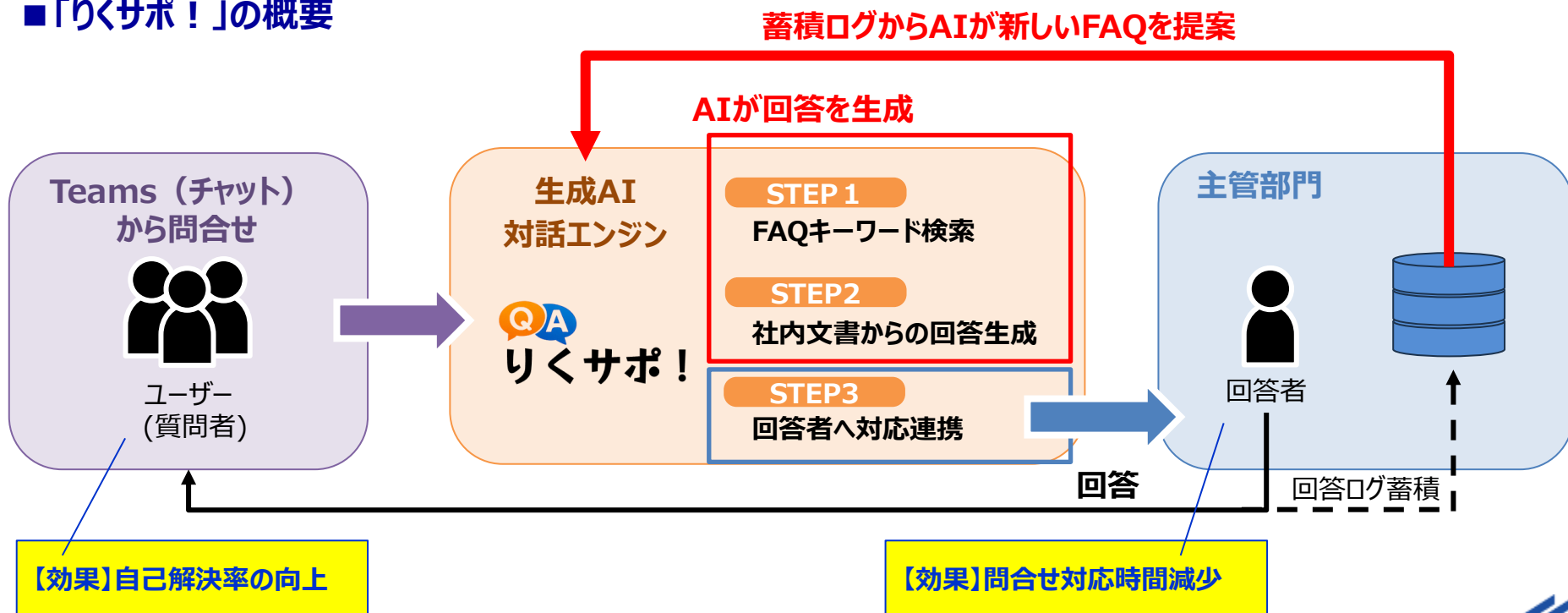
【北陸電力本体でのアプリ作成強化策】



- アプリ作成数が少ない事業所を対象に企画
- kintoneが活用できる業務の洗出しから、アプリ作成支援を短期集中的に実施

- 2025年1月、社内規則・マニュアル・FAQ等を一元管理するシステム「りくサポ！」を全社導入し、質問者や問合せを受ける主管部双方の業務効率化を図っています。
- 「りくサポ！」はFAQ等をキーワードやカテゴリ検索機能や生成AIによる回答生成により、質問者の検索性(自己解決率)が向上。
- 解決しなかった場合は、ツール上で主管部へ問合せが可能。検索・問合せ対応結果を踏まえAIが新しいFAQを提案する機能もあり、問合せを受ける回答者(主管部)の対応時間も削減。

■「りくサポ！」の概要



- 当社専用の生成AI「LingoGPT」を内製開発し、2024年4月から全社で利用を開始。
- 「RAG※」や「議事録自動生成機能(Lingo録)」など、順次、新たな機能を開発・拡充し業務へのAIの活用範囲の拡大を図っています。

※AIが回答を生成する前に、データベースや文章等から関連情報を検索・取得し、その情報をもとに回答を作成する技術

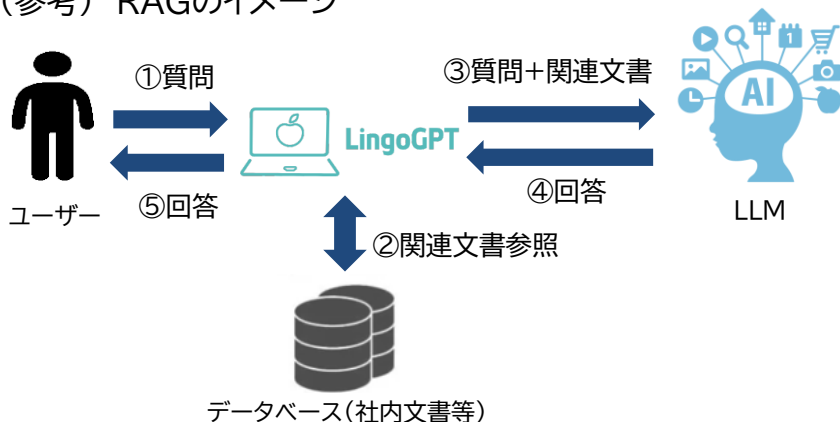
■ RAGの活用状況

- 当社でもRAG機能を活用し、100件弱の事例で活用

<当社におけるRAGの活用例>

- 発電所の過去トラブル情報を登録し、トラブル発生時の原因調査・対応検討をAIが分析・提案
- 料金約款・通達資料等を登録し、支店から本店への問い合わせを削減(AIが回答生成)

(参考) RAGのイメージ



■ 議事録自動生成AIの主な機能

- 録音データをアップロードするだけでAIが議事録を自動生成
- 話者識別や単語登録等の機能も備え、議事録作成業務を省力化

Lingo録



北陸電力DXを推進し、「新中期経営計画」「2050年の将来像」の実現を目指します。

■ 2050年の将来像

地域とともに、持続可能なスマート社会を目指して

■ 新中期経営計画の経営の3本柱

柱Ⅰ

安定供給確保と収支改善および財務基盤強化

柱Ⅱ

地域と一体となった脱炭素化の推進

柱Ⅲ

Ⅲ.持続的成長に向けた事業領域の拡大

方針① 生産性向上

Action①

業務の高度化

Action②

柔軟・効率的な働き方

方針② 新たな価値創造

Action③

付加価値サービスの提供

Action④

地域の課題解決・貢献

北陸電力
DX

方針③ 変化に対応可能な環境整備

Action⑤

システム基盤の見直し

Action⑥

DX人財の育成

その他、これまでの北陸電力のDX取組みについて、以下のURLをご確認ください。

北陸電力DX戦略（2023年10月公表）

<https://www.rikuden.co.jp/hoshin/attach/dxsenryaku.pdf>

北陸電力DX戦略実現に向けた取組み状況（2025年7月公表）

<https://www.rikuden.co.jp/hoshin/attach/dxtorikumijoukyou.pdf>